

福島再生・ 未来志向 プロジェクト

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

福島復興の新たなステージに向けて



福島再生・ 未来志向プロジェクト 始動の経緯

2011年3月11日、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所での事故の発生は、未曾有の被害を生じさせました。

環境省では、放射性物質汚染対処特別措置法に基づき、2012年1月より土壌等の除染や汚染廃棄物の処理など福島の環境再生に取り組んできました。2018年3月には帰還困難区域を除く地域で除染が完了しています。福島県内では道路・鉄道等のインフラ復旧も進み、避難指示も順次解除され、原子力災害からの復興がスタートするとともに、帰還困難区域においても、新たなまちづくりを目指した特定復興再生拠点の整備が進められています。

こうした福島の復興に、環境省の得意とする脱炭素、資源循環、自然共生などの環境施策でも貢献する。福島での環境回復の取組に加えて、「未来志向」の取組も進めてほしいとの地元の声も受け、2018年8月、環境省は新たな決意の下、「福島再生・未来志向プロジェクト」をスタートさせました。

地元ニーズに応え、環境の視点から、地域の価値を創造・再発見する未来志向の取組を力強く進めてまいります。



基本的なプロジェクトの考え方

環境省は、除染や特定廃棄物対策などの環境再生の取組だけでなく、地域の人々と一緒に未来の姿を見る、そして創る一員であるという認識のもと、環境省の得意分野を活かして、福島の未来志向の取組を力強く推進していきます。

目指す地域の姿 (本プロジェクトのアウトカム)

- コミュニティ(共助のある社会)の再生
- 最先端の環境技術用いた地域づくり
- FUKUSHIMAのイメージ転換(環境先進地域へ)
- 新たな経済的基盤を構築(地域循環共生圏の視点から)



不燃性廃棄物の再資源化施設の整備



大熊・双葉環境まちづくりミーティングでの議論

産業創生への支援

福島イノベーションコースト構想の6つの重点分野のうち、「エネルギー・環境・リサイクル」分野の支援をしています。

脱炭素まちづくりへの支援

地域のニーズを踏まえ、再生可能エネルギー導入等に資する実行可能性調査を実施し、地域の「脱炭素×復興まちづくり」を支援しています。

ふくしまグリーン復興への支援

「ふくしまグリーン復興構想」に基づき、国立・国定公園の魅力向上等の取組を推進しています。

地域活性化への支援

産官学連携し、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや福島の復興の歩みを学ぶホープツーリズムの実施等を支援し、福島における風評払拭の取組を強化します。



磐梯朝日国立公園でのワーケーションの聖地を目指した取組



福島フェスでの風評払拭のための取組

福島再生・未来志向プロジェクト

産業創生への支援

なりわいの復興

福島イノベーションコースト構想は、東日本大震災及び原子力災害によって失われた福島県浜通り地域の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。環境省では6つの重点分野のうち「エネルギー・環境・リサイクル」分野において、先進的なリサイクル技術の産官学連携、技術開発等に関する取組を推進していきます。

福島イノベーション・コースト構想

重点分野に関する 6つの取組の内容



廃炉



ロボット
ドローン



エネルギー
環境
リサイクル



農林水産業



医療関連



航空宇宙

☑ 支援事例

環境・リサイクル分野における官民連携の支援 ～大熊町不燃性廃棄物の再資源化施設の建設～

- 廃棄物処理施設整備事業費補助金廃棄物リサイクル施設整備事業地元企業を含む8社の協同実施事業を採択。
- 「(株)相双スマートエコカンパニー」として、双葉郡大熊町に不燃性廃棄物の再資源化施設を建設。2020年秋に稼働開始。



大熊町不燃性廃棄物の再資源化施設外観(10月2日竣工)

写真：2020年8月13日撮影

産業の創出に向けた支援を進めるとともに、
雇用創出による住民の帰還の支援を進めてまいります。

不燃性廃棄物の再資源化施設の稼働開始と、産業基盤の充実に向けて



株式会社 相双スマートエコカンパニー
代表取締役社長 岡田 美洋 さん
福岡県出身、九州大学大学院工学研究科修士
(1994)同和鉱業(株)(現・DOWAホールディングス(株))入社後、磁性材料の研究職を経て、自動車リサイクルのASR焼却・熱回収工場立ち上げなど、同社の環境・リサイクル事業を国内外で担当し、2019年より現職。

(株)相双スマートエコカンパニーについて

当社は、事業趣旨に賛同した地元を中心とする民間企業8社が協同し、2018年10月に設立されました。環境省から廃棄物処理施設整備事業補助の支援もいただくことができ、不燃系廃棄物の再資源化施設として、インフラ復旧・整備工事の円滑な進行を支え、安全な再生資源を供給していくことを目指しています。リサイクル施設は大熊町で建設を進めており、2020年10月に稼働開始見込みです。

今後に向けて 当社は、安全な再生資源を供給するため、適切な放射線量管理と選別を確実に進めるよう、搬入、選別、搬出のそれぞれの工程で、徹底した放射線自動測定・判別を行います。その他、先端的な技術実証や事業化も積極的に検討し、地域の産業基盤の充実、生活基盤の一助となるように全力を尽くします。



放射線自動測定機の
設計イメージ



現在仮置きされている
不燃系廃棄物の例

脱炭素まちづくりへの支援

暮らしの復興

地域のニーズを踏まえ、復興に携わる人・まちの視点から、再生可能エネルギーの導入、技術開発の一層の加速化等に資する実行可能性調査(FS:フイージビリティスタディ)を実施し、地域の「脱炭素×復興まちづくり」を支援しています。

福島県でのフイージビリティスタディとは

福島県浜通り地域では、住民の帰還や産業の再建が道半ばとなっており、将来の見通しが定かでないことから、新たに民間企業等が事業を実施するリスクがあります。このため、環境省の委託事業として、民間企業等が持つ脱炭素まちづくりに資する技術を福島県浜通り地域で適用できるかどうかなどについて実現可能性を調査し、CO2削減効果のある事業の定着を支援しています。

フイージビリティスタディ事例

- 高効率な次世代型の農業モデル構築に係るFS調査
- 営農再開を目指すソーラーシェアリングの設置に向けたFS調査
- 企業バス等の共同利用による効率化等に関するFS調査
- 水素サプライチェーン構築に係るFS調査
- 請戸漁港における波力発電設置に向けたFS調査
- 未活用エネルギー熱電併給施設・灰溶融施設の設置に向けたFS調査
- IoT導入を見据えた先導的な農地モデル構築に係るFS調査

環境省は福島の脱炭素化と地域の復興を支援する団体を応援しています!
 環境省ではFS事業に関心のある企業・団体・研究機関の皆さまに向けた相談窓口を開設しております。

福島再生・未来志向プロジェクト相談窓口
 環境省 環境再生・資源循環局
 福島再生・未来志向プロジェクトチーム
 電話:03-3581-2788 Email:mirai_shikou@env.go.jp

ICT技術の活用による森林・農業の再生に向けて



株式会社ふたば
 代表取締役 **遠藤 秀文**さん
 技術士(建設部門)・APECエンジニア・
 IPEA国際エンジニア・測量士・潜水士・
 1級土木施工管理技士。

ふるさとでできること

環境省の「まち・くらし創生」JFS事業を聞き、ふるさと富岡町を中心とした双葉郡の森林や農業についての取り組みを考えました。森林や農業は富岡町だけではなく双葉郡全体の問題です。少しでも解決できればと考えました。

森林について

富岡町の森林の基礎調査を行い、森林管理のスマート化の可能性等を検討しました。ドローンとIoT技術を活用して、大幅な省力化と効率化が図れることが分かりました。



マルチスペクトルカメラを搭載したドローン

農業について

2015年からワインを核としたまちづくりをテーマに、「とみおかワイン葡萄栽培クラブ」の圃場で、IoT等を活用したスマート農業の可能性を検証しています。



とみおかワイン葡萄栽培クラブ小浜圃場

ふくしまグリーン復興への支援

自然資源活用による復興

「ふくしまグリーン復興構想」は自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用により、国内外の交流人口の拡大を目指します。福島県と連携し、自然公園の利用者や各地域のニーズ等の把握に努めながら、3つの柱に沿って本構想の実現に取り組みます。

☑ 3つの柱と具体的取組

国立公園・国定公園の魅力向上

自然公園の魅力を活かし、磨きあげ、公園の特徴をいかしたコンテンツを創出。



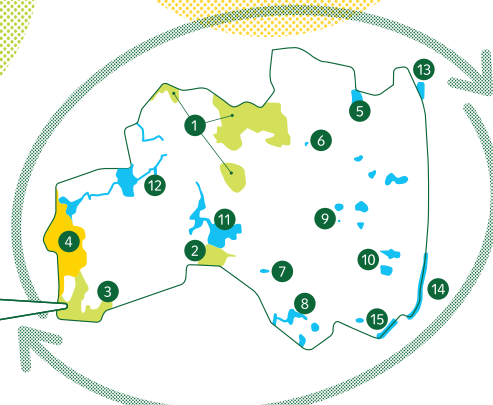
尾瀬沼ビジターセンター

環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し

只見柳津県立自然公園と越後三山只見国定公園を一体的に管理し、保護と適正利用を推進するための調査、検討。

国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊するしくみづくり

ロングトレイルの設定等自然資源等をつなぎ合わせ広域周遊や何度も訪れたいくなる仕組みを構築。



● 国立公園

①磐梯朝日 ②日光 ③尾瀬

● 国定公園

④越後三山只見

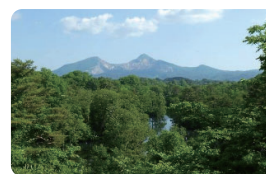
● 県立自然公園

⑤霊山 ⑥霞ヶ城 ⑦南湖 ⑧奥久慈
⑨阿武隈高原中部 ⑩夏井川溪谷
⑪大川羽鳥 ⑫只見柳津 ⑬松川浦
⑭磐城海岸 ⑮勿来

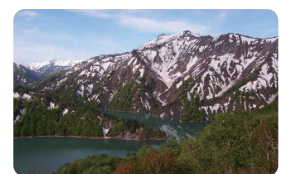
福島県の豊かで多様性のある自然環境と、『ふくしまグリーン復興構想』の策定

福島県には3つの国立公園、1つの国定公園、11の県立自然公園があり、面積は県土の約13%を占めています。こうした公園は、多くの人に親しまれ利用されていましたが、震災の影響により利用者は大きく減少しました。また、震災の直接的な影響がなかった地域でも、風評により、教育旅行入込数の回復が遅れている状況にあります。近年は、平成23年に「磐梯山ジオパーク」が日本ジオパークに、平成26年に越後三山只見国定公園、只見柳津県立自然公園を含む只見町全域が「只見ユネスコエコパーク」に認定され、自然環境の保護・保全を図りつつ持続可能な形で活用する取組が進められています。

このような実態や福島県内各地域のニーズを踏まえつつ、2019年4月に福島県と環境省の共同により、ふくしまグリーン復興に関する取組の基本的な方向性を取りまとめた『ふくしまグリーン復興構想』を策定しました。本構想では、自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用を促進し、交流人口の拡大を目指しています。



磐梯山ジオパーク(北塩原村)



只見ユネスコエコパーク(只見町)

地域活性化への支援

リスコミ・情報発信による復興

福島県や関係自治体、民間団体、教育機関等と連携し、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや地域の魅力の発信、ふくしまの復興の歩みを学ぶホープツーリズムの実施等を支援し、福島における風評払拭の取組を強化します。

☑ これまでに、以下の取組を実施しています。

- 放射線に関するリテラシーの向上を目指して、ワークショップや出張講義を実施しています。
- 浜通り地域を中心に、学生ボランティアによる「聞き書き活動実施」や地域自治体と連携した「地域イベントの共催」等、様々な取組を支援しています。
- 国内外から多くの方が訪れる新宿御苑で開催されるイベント等で、「福島の農産物をPRするマルシェ」を開催するとともに、「福島県内の高校生による規格外の農産物を活用した特産品の開発」等の活動を通して、福島の「いま」を発信しています。

ふたば
未来学園での
出張講義



学生による
聞き書き活動



福島県農産物
PRイベントの
開催

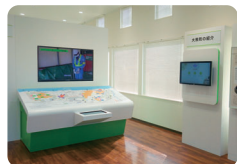


福島県の
高校生による
特産品開発



環境省の情報発信拠点

中間貯蔵工事情報センター



除染により発生した土壌等を最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設です。中間貯蔵施設工事（特に除去土壌等の輸送や施設整備工事）について、その概要、工事の進捗状況、安全への取組等を紹介しています。

開館時間 10:00～16:00 休館日 毎週日曜・月曜（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始 所在地 福島県双葉郡大熊町大字小入野字向畑256

特定廃棄物埋め立て情報館 リプルンふくしま



放射性物質に汚染されたごみの埋立処分についてわかりやすく学べる体験型の情報館です。特定廃棄物の埋立処分事業の概要や必要性、安全対策、進捗状況などについて「動かし」「さわり」「遊び」ながら、「知る」ことができます。

開館時間 9:00～17:00 休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始 所在地 福島県双葉郡富岡町大字上郡山字太田526-7



環境再生プラザ



福島 の 環境回復の歩みや放射線、中間貯蔵などの環境再生に関する情報をお伝えする

拠点です。わかりやすいパネルや模型展示、専門スタッフによる解説や相談を行っています。また、市町村や町内会、学校などへ専門家を派遣したり、様々な地域やイベントで移動展示を行ったりしています。

開館時間 10:00～17:00 休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始 所在地 福島県福島市栄町1-31 1階

お問い合わせ先

環境省 環境再生・資源循環局 福島再生・未来志向プロジェクトチーム

電話：03-3581-2788

メールアドレス：mirai_shikou@env.go.jp

URL：<http://shiteihaiki.env.go.jp/fukushimamirai/>

